支援企業に6社選定

宇大と共同研究、事業化へ

「食と農」プロジェクト推進協

足利銀行、県、野村証券で構成する「食と農」企業支援プロジェクト推進協議会（会長・藤沢智足銀頭取）は、宇都宮大と連携して新商品や新技術開発を支援する6社を初めて決めた。各社は2月以降、担当教授らと共同研究を進め、3年後をめどに事業化を目指す。藤沢会長が26日、宇都宮市内で開かれた県産業協議会（新井祥夫会長）の全体例会で明らかにした。

選定されたのは漬物製造販売の遠藤食品（佐野市）菓子製造販売の大麦工房ロア（足利市）農園芸資材等販売のカクヤス商販（矢板市）抗菌剤製造販売の抗菌研究所（那須塩原市）食肉加工品製造販売の滝沢ハム（栃木市）キノコ種菌製造販売の北研（壬生町）。

同協議会は、申し込みのあった6社からヒアリング調査などを実施した上で、25日に開いた審査会で支援を決めた。各社はそれぞれに研究テーマを設定。協議会は企業と宇都宮大の共同研究の進展状況に合わせて、事業計画の策定や販路開拓などの支援を行う。

藤沢会長は同プロジェクトなど地域経済活性化の取り組みについて、足銀として「私どもなりにできることを具体的に一つ一つ実践し、積み上げていきたい」と抱負を語った。

推進協は昨年10月設立。県のフードバレー構想を推進するため、産学官金の4者が連携して地元企業を支援し、事業拡大や成長をサポートするのが大きな柱。2月16日には初のビジネスセミナーを開催する。

（山根茂生）

支援事業者

事業者	所在地	研究テーマ
遠藤食品	佐野市	ショウガのさらなる有効利用
大麦工房ロア	足利市	大麦を使った食品
カクヤス商販	矢板市	ジネンジョの地上栽培、ジャンボムカゴ
抗菌研究所	那須塩原市	生分解性樹脂の分解速度調整
滝沢ハム	栃木市	生ハム製法でリステリア菌をゼロにする方法など
北研	壬生町	廃菌床を利用した循環型きのこ栽培システム構築